苫小牧市長　岩倉 博文 様

2019年12月20日

苫小牧市見山町1丁目8-23
勤医協苫小牧病院
院長　宮崎　有広

笑顔あふれるふくしのまちづくりに関する要望書

日頃から医療・介護・福祉活動等、市民の暮らしを考える市政を運営いただき敬意を表します。

2年前より開催しております当懇談において、対応いただきました無料低額診療対象者の調剤薬局にかかる費用助成期間の1年間延長については、2年目を迎えた今もなお対象となった患者さんや家族の皆さんから感謝と喜びの声が数多く寄せられております。本当にありがとうございます。

さて、今年度は昨年に続き以下2点について要請・懇談を行いたく宜しくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

記

1．無料低額診療制度の更なる充実について

昨年度より実施頂きました無料低額診療対象者の調剤薬局にかかる費用助成の1年間の延長は、全国でも先進的な福祉の向上にむけた助成制度として、その利用者さんから喜びの声が日々寄せられております。期間延長の実施から約2年が経過しましたが、その一方で昨年度も要請した内容となりますが、関節リウマチや骨折の可能性が高い骨粗鬆症の治療など一部高額な負担のかかる患者さん（数名程度）が1年の助成制度を終えると自己負担が発生するため、どうしても医療費負担による経済的理由により治療を中断する方がでております。安心して治療の継続ができるより充実した制度として「苫小牧市無料低額診療事業調剤処方助成事業実施要項」第4条の「さらに6ヵ月の期間内で延長できるものとする」に続き、あらためて「ただし医師の診断により治療の継続が必要と判断された場合はこの限りではない」の一文を追記いただき、更なる制度充実に向けたご支援、ご検討をお願いしたいと考えます。

2．子ども医療費の無料化拡大について

先進諸国の中でも日本の現状は、とりわけ子どもの相対的貧困率が高く問題視されているなか、北海道が発表している「子どもの貧困に関する全道実態調査」では、経済的理由で受診を断念させた世帯が17.8%、非課税世帯では32.6%と高く、子どもの貧困率は全国平均と比較しても高いデータが示されているところです。

このような現状をふまえ苫小牧市では、就学援助世帯に対する入学前の準備金支給など先進的な施策にも取り組まれているところですが、子ども医療（乳幼児等医療費助成）に関しては、北海道の基準である就学前までの助成の範囲となっています。こうしたなか、無料低額診療制度の対象となる世帯、就学援助世帯のお子さんはこの制度を活用できる医療機関は当院しかなく、お金の心配なく専門医療機関を受診することが困難な現状があります。

北海道の中でも函館市をはじめ、中学3年生まで医療費の無料化を独自に実施している市町村も生まれています。苫小牧市としても是非、子どもの医療費無料化に向けた助成範囲の拡大についてご検討をお願いしたいと考えます。

敬具